

森の声キャンプ

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
30	23	23	23 (7 家族)

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・若狭湾の自然の中で思いっきり遊ぶことを通して、自然の素晴らしさを味わい、自然への興味や理解を深められるようにする。
- ・ハイキングの中での様々な課題を乗り越える体験を通して、達成感や充実感、思いやりの心を育ませる。
- ・親子で一緒に自然体験活動を行うことで、活動中や家庭での親子の会話する機会やコミュニケーションが増えるようにする。

◆期日・期間

平成 30 年 12 月 15 日（土）～12 月 16 日（日） 1 泊 2 日

◆連携機関

福井、岐阜、愛知、滋賀、京都 各府県教育委員会、小浜市教育委員会

◆参加者分析

今回は、9 家族の応募があり 2 組がキャンセルし、7 家族が参加した（表 1 参照）。参加者の中には、子どもが他の事業に参加しているが家族で参加するのが初めてである家族が 2 組あり、お父さんが初めて参加する家族もあった。他の事業で参加した子どもの兄弟が楽しそうだから自分たちも行きたい！と言い参加を決めた家族もあった。なかなか家族でゆっくり参加できるイベントがないのでとても良い機会である、といった感想も直接聞いている。

表 1. 応募家族及び参加家族の詳細

府県	京都		滋賀		岐阜		福井		愛知	
応募家族数	1		2		1		3		2	
参加家族数	1		2		1		3		0	
当施設の事業参加経験家族数	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
	0	1	子のみあり 1	1	0	1	子のみあり 1	2	1	1

※愛知の 2 組はキャンセル

また、参加者は 2 3 名で、最低年齢は年長であり 4 名いた（表 2 参照）。お父さんお母さん子どもという組み合わせだけでなく、お父さんと年長の子どもや、お母さんと子ども 3 人という組み合わせがあり様々であった。

表 2. 参加者の詳細（年齢と男女）

	3 歳以下	年長	小学生	中学生	保護者	合計
男	0	4	4	0	6	14
女	0	0	4	0	5	9
合計	0	4	8	0	11	23

◆日 程

(受付：10：30～ 開会式：11：00 / 解散：12：00)

12月15日(土)	10		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
			受付開始	開会式 アイスブレイク	昼食(食堂)	(歌碑までコース) ハイキング			入浴		夕食(食堂)	絵本の読み聞かせ	就寝	
12月16日(日)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15				
	起床	朝のつどい	朝食(食堂)	(森で材料を集めて) クラフト活動		閉 解 会 散 式								

○企画のポイント (日程・特色など)

・広報について

今回は、普段広報している学校には広報せず、地域の道の駅や公共の施設、ショッピングセンターなどにチラシの設置を行った。これまでに広報未開拓の施設には、事情を説明し、今回のチラシの設置の可否と今後の設置の可否、郵送の可否なども調査し広報した。合計67施設で調査し、60施設にチラシを設置した。さらに、滋賀県、愛知県の市役所で管理する（もしくは外部組織が管理する）インターネットによるイベント情報サイトに対しても新しく団体登録を行い、掲載した。

・日程とプログラムについて

今回は、森のプログラム開発も兼ね、1日目に自然遊歩道を使ったハイキングにし、そのハイキングで拾ってきた自然物を2日目のクラフト活動で使うというプログラムを行った。冬のハイキングで寒さや日没時間を考慮し、午前中に集合し、午後の時間いっぱいを使いハイキングできるような日程にした。年長児の参加も想定し、プログラムを詰め込みすぎず、ゆったりと過ごせるよう夜は絵本の読み聞かせを自由参加に、2日目もクラフト活動のみの日程にしている。参加者アンケートにも数件記述があるように、「ゆったりと過ごせてよかった」と感じているようだった。

ハイキングでは、寒さ対策で温かい飲み物を現地で作り、提供する時間を設けた。また、ふれあい山荘を開放し避難場所兼休憩場所に活用した他、座マットを作成したり、防寒用に雨具をスタッフが多めに持参するような対策も講じた。さらに、ハイキング中では、作成したネイチャービンゴカードを家族毎に配布し、家族で協力するような機会を設け、様々な視点で自然に興味関心が向くようにした。

絵本の読み聞かせでは、森やハイキングがテーマとなるような絵本を、紙芝居やビッグブックなど様々な絵本を用いて、職員自身が読み聞かせを行った。それぞれの絵本で役を分担し、参加者が楽しめるよう工夫した。

クラフト活動では、各家族がハイキングで収集した自然物の他に、ドライフラワーや丸太などを用意して創造力豊かな作品が仕上がるようにした。今回は、リース、どんぐりを使った置物、コースターをどれでも好きなだけ作れるようにした。

◆運営のポイント

担当職員がそれぞれ役割分担を行い、事業前にしっかり準備を行うことができ、事故や怪我もなくスムーズにプログラムが進んだ。また、この事業の目的やねらいに対して事前のミーティングから密に話し合っていたため、事業当日は担当職員が自主的に判断し、臨機応変に対処

することができていた。

◆安全管理について

この事業の安全管理に対して事前のミーティングから密に話し合っていたため、事業当日は担当職員が自主的に判断し、臨機応変に対処することができていた。また、細案に緊急体制フローチャートを作成し、緊急の場合にも備えることができていた。

3. アンケート結果

<参加者>

項目	4	3	2	1	未記入
事業全体をとおしてどうでしたか	100%	0%	0%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

4. 成果と課題

【企画・準備について】

- ・当初この事業についての話がありミーティングが始まったのは6月下旬頃からだったが、事業目的や内容が決まるまでに相当の時間がかかった。
- ・誰が主担当かを明確にする必要があった。
- ・勤務時間内で話し合う機会がなかなか持てず、時間外となることも多々あった。

【広報について】

- ・今回は、学校等に配布せず、普段広報していない組織や機関に「今後の広報エリアの拡大」も念頭に入れ、交渉しチラシの設置を依頼した。図書館や児童館、公民館は快く引き受けてくれて今後も事業のチラシを設置してくれる。また、郵送でも構わないとのこと。
- ・実際上記機関への広報の結果、9組の応募者があった（うち2組キャンセル）。スーパーなどが多く集まるような場所では、設置したチラシがなくなっており、多くの方々の目に留まったのではないかと考える。とくに、子どもではなく大人の方に。しかしながら、お金をかけて設置した郵便局ではほとんどチラシが減っておらず、あまり効果があったとは言えない。手持ちして広報に回ったわりに応募が少なかったのかなという印象である。
- ・愛知県、滋賀県の生涯学習課が運営している「イベント情報サイト」に登録し、情報を掲載した。実際にそれを見て応募した方もいたので、効果が期待できるため、今後、全ての事業で掲載をしても良いのではないかと考える。
- ・当初10月末までに広報を行う予定であったが、出張等で広報ができず、募集期間が1ヶ月もない、ことになった。手持ちで交渉に回るのは大変だった。

【プログラムについて】

①アイスブレイク（20分）

家族間での交流も行ったことで、ハイキング中に違う家族の子どもに声をかける姿や違う家族の子ども同士で遊ぶ姿が見られた。

②ハイキング

- ・家族みんなで自然を楽しみながら歩いてもらう目的で、ネイチャーゲームビンゴカードを配布したが、少々家族毎でなくなる家族があった。

- ・遅れる家族があり、前との差が20分ほどあった。今後、チェックポイントを設け、家族もしくは全体を留まらせることを検討する。待っている間は自然の話ができればよい。
- ・実際に質問されることもあったので、職員の自然に関する知識がもう少しほしかった。自然観察カードを家族に配布することを検討する。
- ・ふれあい山荘を越えた「谷」は、参加者から雰囲気がいいね！など良いリアクションがあった。一方で、歌碑は直接風があたる場所でもあり、とても寒かったため長居する家族はいなかった。
- ・おやつタイムでは、寒さをしのぐため、温かい飲み物やお菓子を出すことは好評であったが、お湯を沸かすのにかなり時間がかかった。湯沸かし係として早めに到着し湯を沸かしておけばよかった。また、お湯をわかす道具（ジェットボイルなど）を購入することを検討する。さらに、やかんが倒れお湯がこぼれてしまうことがあったため平らな台、机を準備しておけばよかった。
- ・ハイキングの帰りに浜で遊ぶ、自然物を集める時間を作ったが、もっと時間を確保してもよかった。
- ・行動食をわたす機会がなかったので、最初に家族毎に配布しておけばよかった。

③絵本の読み聞かせ

- ・それぞれの本を読む前後に、本と現実をつなぐ一言などがあるとよかった。
- ・毛布を用意したが使いにくかったのか使う人がいなかったため、毛布を広げて敷き詰めることを検討する。

④クラフト活動

- ・終盤で作り終わった家族が暇そうにしていたので、作り終わった家族は浜へ遊びに行ってもよい、ことを検討する。
- ・丸太を切るコーナーでは、丸太を固定する装置が壊れやすかったので、しっかり固定できるようにしておく必要があった。切る人は軍手をしていなかったが、添える手だけでも軍手を着用した方がよかった。
- ・今回のクラフト活動で行ったりー、どんぐりを使った置物、コースターはかなり好評であったため、今後、これらの山系クラフトもぜひブース出店の際に出しても良いと思う。また、山と海をコラボさせたクラフト活動に改良していきたい。今後も松ぼっくり、どんぐり、流木などこの辺で採れるものは積極的に取っていき、材料を豊富にしていくことを勧めたい。

【参加費について】

参加費の一部である「飲み物代」210円（大人）、150円（小学生）、110円（幼児）と「雑費（ゴミ袋代）」25円（大人、小学生、幼児）を見直す必要がある。飲み物代は主にハイキングの際に温かい飲み物やお菓子を提供したが、アンケートにもあるように、それほど充実させる必要がなかったため、「飲み物代」を一律100円にしても良かった。

【全体を通して】

- ・今回はたまたま天候に恵まれたが、前の週には雪が降っているほど寒い（当日の最高気温は6~7℃）。どんぐりなどももうほとんど落ちていないため時期を早くすることを検討する。

- ・ 少人数だったおかげか、家族間の交流がわりと多くみられた。とくにハイキングやクラブの際に参加者同士で会話しているのを見かけた。
- ・ アンケートにもあるように、プログラムのスケジュールは程よく、ゆっくりできていた。
- ・ 事業の最後に、このキャンプを通して家族の深まりが高まるように、事業中の家族の写真をプレゼントし、みなさん喜んでいました。

5. 活動の様子 写真（数枚）

【アイスブレイクの様子】



【ハイキングの様子】



【絵本の読み聞かせの様子】



【クラフト活動の様子】

